

事例 1 思いをもって歌唱表現を工夫する児童の育成の事例

○学年 第2学年

○領域・分野・題材名 A表現(1)歌唱 「ようすをおもいうかべよう」

○事例のポイント

- ①児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は、【音色、速度、旋律、強弱】である。
- ②思いに合った表現をするために必要な技能の習得に向けた活動を例示する。
- ③曲想と歌詞の表す情景や気持ちを関連させながら歌唱表現に対する思いをもたせる指導を展開する。
- ④ICT端末を活用した歌唱の評価の工夫と学びの蓄積の例示をする。

1 題材名 ようすをおもいうかべよう（7時間扱い）

2 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、日頃から音や音楽に親しんでおり、毎回、音楽の授業をととても楽しみにしている。歌唱の学習では、拍に合わせて体を動かしながら歌うなど、曲想を感じ取って表現する活動に取り組んできた。一方で、曲想と歌詞の表す情景や気持ちを関連して楽曲に親しむことに課題が見られる。また、思いに合った歌唱表現を工夫することについては、全体的に画一的な歌唱表現にとどまってしまう、曲の雰囲気合った歌唱表現を思考、判断し、表現することに課題が見られる。

(2) 題材について

本題材は、曲想や歌詞の内容から曲が表している様子を思い浮かべ、表現を工夫することをねらいとしている。

第1次では、音色や速度の特徴から、曲想を感じ取り、音楽を味わう学習を展開する。まず、音色に着目して「卵の殻を付けた雛鳥のバレエ」を鑑賞することで、楽器の音色や響きの特徴に気付くようにする。また、想像力を働かせて音楽と関わることができるよう、体を動かす活動を取り入れ、児童が表現した体の動きを—楽曲の速度と関連させて価値付けることで、楽曲の特徴をつかむとともに、曲全体を味わって聴くことができるようにする。

第2次では、曲が表す様子を生かして表現を工夫する学習を展開する。「あのね、のねずみは」の歌唱では、歌詞の内容から登場人物の特徴を捉え、それぞれに合った歌唱表現を工夫する。この時、歌詞に登場しない人物を想像させ、実際に歌って確かめていく過程を多く取り入れ、様々な音色を考えさせることで、次時以降の学習に生かすことができるようにする。次に、「夕やけこやけ」の歌唱では、「あのね、のねずみは」と比較することで曲の雰囲気の違いを捉えさせたり、歌詞の表す情景との関連を図ったりしながら、歌声の音色や速度、強弱を工夫し、思いに合った歌唱表現について考えるようにする。これらの学習をもとに、「小ぎつね」の歌唱では、歌詞の内容の違いから曲想の違いを感じ取る学習を、鍵盤ハーモニカでは、歌唱の活動で感じ取った曲想の違いを生かして、速度や強弱表現を工夫し、思いに合った表現ができる学習の充実を図る。

記述のポイント

児童の実態については、音楽の学習における児童の様子や課題を記述する。

特に、本題材で学習する内容や音楽を形づくっている要素に関わることについて具体的に記述することが望ましい。

また、必要に応じて題材に関わるアンケート結果等を掲載することも考えられる。

題材については、題材における教師の指導の意図が伝わるよう、学習形態や指導のねらいなど、題材における指導の留意点について記述する。

その際、指導の観点を分かりやすくするために、(1)児童の実態の内容を踏まえ、児童が何を学ぶか、どのように学ぶのか、何ができるようになるかを明らかにして記述することが望ましい。

(3) 学習指導要領との関連について

本題材では、学習指導要領の
A表現
(1) 歌唱ア、イ、ウ(イ)、
(2) 器楽ア、イ(イ) ウ(イ)、
B鑑賞ア、イ
を指導するものとする。

学習指導要領との関連については、題材に関わる学習指導要領の指導事項について記述する。
小学校学習指導要領解説音楽編の指導計画作成上の配慮事項として、次のように示されている。
(2) 第2の各学年の内容の「A表現」の(1)、(2)及び(3)の指導については、ア、イ及びウの各事項を、「B鑑賞」の(1)の指導については、ア及びイの各事項を適切に関連させて指導すること。
そのため、題材で指導する歌唱、器楽、音楽づくり、鑑賞のそれぞれに適切なア、イ、ウを選択して記述する必要がある。

3 題材の目標

- (1) 音色、旋律、強弱などと曲想との関わりに関心を持ち、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能や、音色に気を付けて、旋律楽器を演奏する技能を身に付ける。〈知識及び技能〉
- (2) 音色、速度、旋律、強弱などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、様子を表す音楽の楽しさを見いだしながら曲全体を味わって聴いたり、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもったりする。
〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) 曲の雰囲気合った表現に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習活動に取り組み、様子を表す音色や速度、旋律、強弱に親しむ。
〈学びに向かう力、人間性等〉

4 教材について

- (1) 「卵の殻を付けた雛鳥のバレエ」 ムソルグスキー 作曲
- (2) 「あのね、のねずみは」 春畑セロリ 作詞作曲
- (3) 「夕焼け小焼け」 中村雨紅 作詞／草川 信 作曲
- (4) 「小ぎつね」 ドイツ民謡（勝 承夫 日本語詞）

5 学習指導要領の指導事項と〔共通事項〕との関連及び具体的な学習活動

指導事項	歌唱ア	歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
	歌唱イ	曲想と音楽の構造との関わり、曲想と歌詞の表す情景や気持ちとの関わりについて気付くこと。
指導事項	歌唱ウ(イ)	自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けること。
	器楽ア	器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつこと。
指導事項	器楽イ(イ)	楽器の音色と演奏の仕方との関わりに関心を持ち、気付くこと。
	器楽ウ(イ)	音色に気を付けて、旋律楽器を演奏する技能を身に付けること。
指導事項	鑑賞ア	鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴くこと。
	鑑賞イ	曲想と音楽の構造との関わりについて気付くこと。
〔共通事項〕	ア	音色・速度・旋律・強弱
	イ	
具体的な学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽器の音色や旋律の動きを感じ取りながら聴く。 ・ 曲が表している様子を思い浮かべ、歌声の音色を工夫する。 ・ 旋律に合わせて体を動かすことで、曲想を感じ取る。 ・ 歌詞の内容を生かして、強弱表現を工夫する。 	

6 題材の評価規準

※丸数字は、全員の学習状況を記録に残す場面

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	①[知]曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。(歌唱、鑑賞) ②[技]思いに合った表現をするために必要な、自分の歌声及び発音に気を付けて歌う技能を身に付けている。(歌唱) ③[知技]鍵盤ハーモニカの音色と演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、音色に気を付けて、鍵盤ハーモニカを演奏する技能を身に付けている。(器楽)	[思]①音色、速度を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏の楽しさを見だし、曲全体を味わって聴いている。(鑑賞) [思]②音色、速度、旋律、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いをもっている。(歌唱、器楽)	[態]①音や音楽から想起する様子に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱、器楽、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(歌唱、器楽、鑑賞)
1時		①観察・記述	
2時			
3時	①[知] 観察記述		
4時			
5時	②[技] 観察・聴取		
6時	③[知技] 観察・聴取		
7時		②観察・聴取・記述	①観察・聴取・記述

丸数字は、全員の学習状況を記録に残す場面

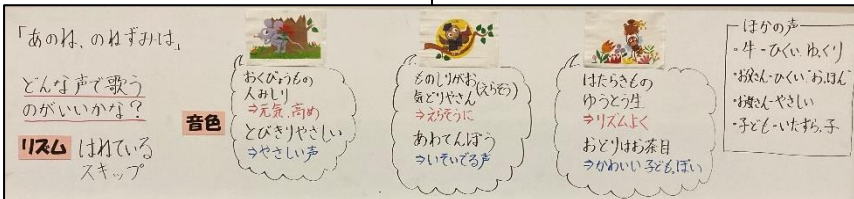
実践事例として活用しやすいよう、「事例のポイント」を記載しているが、本来は評価項目となる箇所である。



(P132 評価資料を参照)

7 指導と評価の計画 (全7時間)

時	◆ねらい ○学習内容 ・ 学習活動 T：具体的な発問	○指導上の留意点	事例のポイント ◎留意事項
1	1次◆音や音楽から曲が表す様子を思い浮かべる。 ○音色、速度を聴き取り、曲の楽しさについて考える。 ・「卵の殻を付けた雛鳥のバレエ」の冒頭を聴き、音色の特徴を聴き取る。 T：高い音や低い音、長い音や短い音、どんな音が聴こえますか。	○音色に焦点化して冒頭の部分を聴くことで、音の高さや長さ、響きの特徴に気付くようにする。 ○音の高さや長さ、響きの特徴について、これまで学習した楽器の音色と比較することで、音色の特徴を捉えやすくする。	[ポイント①] ◎【音色、速度】を基に思考判断できるよう、楽曲を鑑賞する視点を明らかにして聴くようにする。
2	・雛鳥の様子を想像し、体を動かしながら鑑賞する。 T：雛鳥はどんなダンスをしているのか、想像して踊ってみましょう。 ・音色や速度から生み出される	○音楽に合わせて細かく体を動かす児童の姿を価値付けることで、速度の特徴に気付くようにする。 ○児童が感じ取った曲想と音楽を形づくっている要素との関	◎体全体で音楽を感じ取っている児童の姿を価値付けることで、さらに音楽的な見方・考え方を働かせて楽曲に親

	<p>曲想を味わいながら鑑賞する。</p>	<p>わりを板書で整理し、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えることができるようにする。</p>	<p>しむことができるようにする。</p>
<p>3</p>	<p>2次◆曲が表す様子を生かして、歌ったり演奏したりする。</p> <p>○曲想に合った歌い方を考える。</p> <p>・「あのね、のねずみは」の範唱を聴き、曲想を感じ取る。</p> <p>T：どんな生き物が出てくるか注目して聴きましょう。</p> <p>・付点のリズムを感じながら歌唱する。</p> <p>・歌詞の表す情景や気持ちを想像し、曲想に合った歌い方を考える。</p> <p>T：のねずみはどんな声をしているのでしょうか。想像しながら歌ってみましょう。</p> <p>・様々な人物をイメージして、歌声の音色を広げる。</p> <p>T：他の人物がこの曲を歌ったら、どんな歌い方になると思いますか。</p>	<p>○歌詞にある動物たちの鳴き声など（チュウ、ホウ、ブーン）を提示し、どんな生き物が出てくるのか見通しをもって楽曲を聴くことができるようにする。</p> <p>○旋律に合わせて体を動かしながら歌う児童の姿を価値付けることで、付点のリズムを感じながら歌えるようにする。</p> <p>○付点のリズムとスキップの動きをつなげることで、楽しい雰囲気を感じ取れるようにする。</p> <p>○歌詞の内容から動物の様子を捉え、具体的な姿を想像することで、どのように歌いたいか思いをもつことができるようにする。</p> <p>○教師が様々な歌声で範唱を提示し、歌唱表現における児童の思考判断の選択肢を広げることができるようにする。</p> <p>○様々な人物（動物）をイメージしながら色々な歌声の音色を試すことで、次時の学習に生かすことができるようにする。</p>	<p>◎歌唱教材を2曲続けて取り組むことで、2曲を比較しながら曲想に合った歌い方について児童が深く考えることができるようにする。</p> <p>ポイント①</p> <p>◎音楽に合わせて体を動かすことで、【旋律】を基に曲想について思考判断できるようにする。</p> <p>ポイント③</p> <p>◎歌詞の内容の変化に合わせて、歌声の音色の変化を感じ取れる教師の範唱での例示をすることで、曲想と歌詞の表す情景や気持ちを関連させながら歌唱表現に対する思いをもつことができるようにする。</p> <p>ポイント②</p> <p>◎様々な人物をイメージしながら、歌声の音色を広げることで、思いに合った表現ができるようにする。</p> <p>【参考資料】</p> <p>・ 本題材につながる技能の習得場面 (動画リンク)</p>
<p>4</p>	<p>○歌詞の様子を思い浮かべながら歌唱する。</p> <p>・「夕やけこやけ」の範唱を聴き、曲の感じをつかむ。</p> <p>T：曲の速さに合わせて歩いてみましょう。</p> <p>・歌詞の表す情景を想像しながら、歌声を考える。</p> <p>T：「あのね、のねずみは」と比べて、どんな曲だといえますか。</p> <p>T：この曲には、どのような音</p>	<p>○前時の学習を振り返り、様々な人物をイメージしながら高さや響きなどの異なる色々な音色で既習曲を歌うことで、歌声の幅を広げるようにする。</p> <p>○範唱に合わせて体を動かすことで、ゆったりとした旋律の特徴をつかむようにする。</p> <p>○「あのね、のねずみは」の曲想と比較して、範唱を聴いたり歌ったりすることで、曲想</p>	<p>ポイント②</p> <p>◎様々な人物をイメージし、それに合った声を出す常時活動に取り組むことで、歌声の幅を広げるようにする。</p> <p>ポイント①・③</p> <p>◎旋律を「あのね、のねずみは」と比較することで、曲想を感じ取るとともに、ふさわしい歌声について、【音色】</p>



	<p>色の声があっているでしょうか。</p>	<p>が違うと、相応しい歌声も異なってくることに気付くようにする。</p>	<p>を基に思考判断できるようにする。</p>
<p>5 本 時</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1番と2番の歌詞の表す情景を比較し、歌声の音色や速度を工夫する。 T：1番と2番の歌詞を比べると、どのような違いがありますか。 T：2番はどのような歌声で歌うとよいでしょうか。 旋律の上がり下がりや歌詞の表す情景の関連を視点に曲の山（第2～3節）の強弱表現をグループで工夫する。 T：「まるい～お月様」までの声の大きさは、どのように変化させるとよいか、グループで考えてみましょう。考えた表現は録画して聴き返してみましょう。 第4節の終わり方を考え、曲全体を通して歌う。 <p>【参考資料】</p> <div data-bbox="256 1066 549 1357" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> 1番と2番の歌詞の表す情景を比較し、時間の経過に気付くようにすることで、歌唱表現を工夫する手掛かりにできるようにする。 グループや個人の歌声を学習者用PCに録音して聴き返すことで、思いにあった表現ができていないか振り返ることができるようにする。 <div data-bbox="671 647 1086 958" style="border: 1px solid black; text-align: center;">  </div> <div data-bbox="671 965 1426 1077" style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>P99 指導計画作成の留意事項(2)</p> </div> <div data-bbox="619 1140 1410 1261" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>本題材につながる技能の習得場面の参考動画 https://youtu.be/1S_49kwVLqQ</p> </div>	<p>ポイント①</p> <p>◎歌詞の表す情景に合った表現ができるよう、表現を工夫する観点を絞ることで、【速度、強弱】を基に思考判断できるようにする。</p> <p>ポイント④</p> <p>◎ICT端末を用いて歌唱表現を録音することで、児童自身が表現を振り返ることができるようにするとともに、録音音源を提出することで、歌唱の評価に生かすことができるようにする。</p>
<p>6 7</p>	<ul style="list-style-type: none"> 様子を思い浮かべながら、鍵盤ハーモニカの演奏を工夫する。 「小ぎつね」の範唱を聴き、場面の様子を想像しながら歌唱する。 T：1番と2番と3番の歌詞を比べると、小ぎつねの気持ちにどのような違いがありますか。 旋律を階名唱する。 鍵盤ハーモニカで演奏する。 1～3番の中で、自分が鍵盤ハーモニカで演奏したい部分を考え、表現を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小ぎつねの気持ちに視点を当てて学習を進めることで、様子を思い浮かべながら思いをもって演奏できるようにする。 小ぎつねの気持ちの変化に応じて、強弱表現や速度表現について思いをもつようにする。 <div data-bbox="683 1688 1437 1800" style="border: 1px solid black; border-radius: 20px; padding: 5px; text-align: center;"> <p>P99 指導計画作成の留意事項(5)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 階名唱が慣れてきたら、鍵盤の運指を同時に行いながら階名唱することで、なめらかに鍵盤ハーモニカで演奏できるようにする。 	<p>ポイント①</p> <p>◎第1～5時の学習と関連付けて曲想を感じ取ることで、【旋律、速度、強弱】を基に思考判断できるようにする。</p> <p>◎歌唱を通して感じ取った曲想を器楽表現に生かすため、適宜、指使いや息遣いについて指導する。</p>

8 本時の学習指導について（5／7時）

(1) 目標

- ・速度、強弱を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いをもつ。（思考力、判断力、表現力等）

(2) 展開

○学習内容・学習活動 C：具体的な児童の姿	○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法
<p>○様々な歌声に慣れ親しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な人物を想像し、声の高さや響きを変えながら既習曲を歌唱する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>様々な人物の例 ねずみ、ぞう、お父さん、お母さん、幼稚園児、担任教師…</p> </div> <p>C：ねずみは小さくてすばしっこいから高くして子供みたいな声が合っていると思う。</p> <p>○前時の学習を振り返り、本時の目標を捉える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「夕やけこやけ」の1番を歌唱する。 ・2番の範唱を聴き、歌詞の内容から情景を捉える。 <p>C：お月様が出ているからさっきより景色が暗くなってそうだね。</p> <p>○2番の歌唱表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の表す時間の経過に伴って変化する速度について考える。 <p>C：1番より夜になっているから、ゆったり歌った方がいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5人グループで第2～3節の強弱表現について考える。 <p>C：「丸い大きなお月様」のところは、きれいで目立たせたいから、大きな声で歌いたいな。</p> <p>C：「小鳥が夢を見るころは」のところは、小鳥が寝ているから小さな声で子守歌みたいに歌うといいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの演奏を学級全体で共有する。 <p>C：あそこのグループは、だんだん声の大きさを変えているから、だんだん月がのぼっている感じが出ていいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級全体で第4節の歌唱表現を考える。 <p>C：最後は小鳥が寝ちゃったから、どンドンゆっくりにして歌った方がいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2番を通して歌唱する。 <p>○楽曲を通して歌唱し、学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1番と2番の表現の違いを振り返り、思いをもって歌唱する。 	<p>○指導上の留意点 ☆評価規準と評価方法</p> <p>○常時活動では、既習の歌声の音色を振り返ることで、本活動につなげるようにする。</p> <p>○声の高さや響きが異なる様々な声で同じ曲を歌うことで、歌声によって曲想が変化することを感ずることができるようになる。</p> <p>○どのような声で歌いたいと思ったのか、前時の学習内容を振り返る発問をして歌唱することで、本時の学習につなげるようにする。</p> <p>○歌詞の内容から、1番から2番にかけて時間の経過があることに気付くようにし、どのように歌唱表現に生かすか課題意識をもつようにする。</p> <p>○時間の経過に伴って夜に近づくことから、どのような速度で歌うとふさわしいのか、歌って試しながら考えることができるようにする。</p> <p>○曲の山に当たる第2～3節の旋律の強弱表現に視点を当て、グループで意見交流したり歌い試したりすることで、どのような表現がよいのか考えることができるようにする。</p> <p>○グループごとにICT端末で演奏を録音し、客観的に振り返ることができるようにする。</p> <p>○適宜、表現の選択に迷っているグループを抽出して演奏を全体で共有することで、学級全体で考えることができるようにする。</p> <p>○各グループの演奏を教師が価値付けたり、児童に価値付けさせたりすることで、学びを全体で共有する。</p> <p>○グループから出た考えを板書に示した拡大楽譜に書き加え、共有する。</p> <p>○速度や強弱を視点を、どのような終わり方がよいか歌い試しながら考えるようにする。</p> <p>○ICT端末の録音機能を活用し、一人一人録音をすることで、それぞれの思いに合った歌唱表現を記録し、振り返るようにする。</p> <p>○板書に提示した拡大楽譜を活用し、どのような表現で歌うとよいか振り返るようにする。</p>



○記述が難しい児童は、机間指導の中で教師とともに速度や強弱の視点でどの部分を工夫したのか振り返るようにする。

本題材につながる技能の習得場面の参考動画

https://youtu.be/IS_49kwVLqQ

・振り返りシート（楽譜）に、自分が表現を工夫した部分について記述する。

☆**思**②記述

○楽曲にふさわしい歌唱表現ができたことを価値付け、次時への意欲を高めるようにする。

2ばんは、1ばんとくらべて

この由の2ばんはお月さまやゆめをこら夜 なので、

お月さまは廻りゆめは小さく 歌いたいです。

2ばんは、1ばんとくらべて

ゆくりしてしてやさしくて歌がきらきらしているきょく なので、

やさしくもりうたのように ゆくりきらきらかか 歌いたいです。

2ばんは、1ばんとくらべて

おそい時間で、8〜9時くらい なので、

1ばんよりしずかにたぬらかに 歌いたいです。

2ばんは、1ばんとくらべて

夜になつたようなかんじ なので、

おわりを小さくねむいかんじで 歌いたいです。

9 板書計画

「夕やけこやけ」の
2ばんの歌い方を
くふうしよう

4~5時
くさ

7~8時
くさ

ゆくりながれている ⇒ なめらか、なげるように **大きく上げて**

やさしい色、やさしい声で、高い(みびく)声で **音色**

夜、月や肌光てる **きょうじゃく** → 大きく → 小さく

はやさ ねそら → ゆくり (1ばん)

大きな夜

おわりかんじ → のぼす


小さく

10 ワークシート (児童の記入例)

「タヤケコヤケ」 ワークシート②

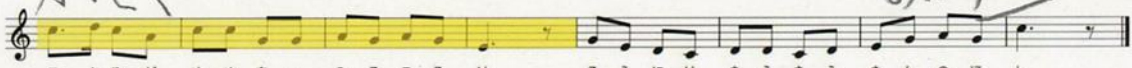
2年 組 ばん 名前

大きく



こどもがかえったあとからは まるい おおきな おつきさま

小さく



ことりがゆめをーみるころは そらにはきらきらきんのほし

ねている

2ばんは、1ばんとくらべて

夜になっているので

なので、

ゆっくり、「小鳥がゆめをー」からは小さく

歌いたいです。